



第77回 ふれ愛シネサロン

芦屋市人権シンボルマーク

桜色の風が咲く

©THRONE/KARAVAN Pictures

9歳で失明、18歳で聴力を失いながらも
世界ではじめて盲ろう者の大学教授となった
東京大学先端科学技術研究センター教授 福島 智の
生い立ちを描いた実話

小雪 田中偉登 吉沢 悠 吉田美佳子 山崎竜太郎 札内幸太
井上 肇 朝倉あき リリー・フランキー

監督:松本准平

PG12 ※12歳未満のかたは、保護者のかたと一緒にお越しください。

令和6年 **10月19日(土)**

〈2回上映・30分前開場〉 バリアフリー字幕あり
①10:00~12:00
②13:30~15:30

会場 上宮川文化センター 3階ホール

芦屋市上宮川町10番5号
(JR芦屋駅・阪急バス「上宮川橋」より徒歩5分)
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

定員 各回150人 [先着] **入場無料**

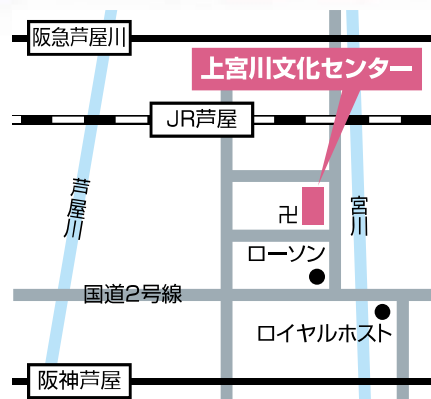
申込方法 9月2日(月)午前9時より受付開始

専用の「申込フォーム」よりお申し込みください。
※電話でのお申し込みは、人権・男女共生課まで

託児無料 託児申込み:定員各回3人(6か月~未就学児)

問合せ 人権・男女共生課 TEL.0797-38-2055

主催 芦屋市/芦屋市教育委員会/西宮・芦屋人権啓発活動地域ネットワーク協議会




映画会の
参加には
申込が
必要です

申込フォーム



申込締切
10月11日(金)まで



見えない。聞こえない。
でも僕は“考える”ことができる——。
母と息子が見出していく希望に満ちた未来。

教師の夫、三人の息子とともに関西の町で暮らす令子。末っ子の智は幼少の頃に視力を失いながらも、家族の愛に包まれ、持ち前の明るさで天真爛漫に育つ。やがて令子の心配をよそに智は東京の盲学校に進学。親友もでき、高校生活を謳歌。淡い恋もする。たまに彼から届く手紙といえば、令子が苦心した点字翻訳に難癖をつけてくる生意気ぶりだ。だが智は18歳のときに聴力も失う……。

暗闇と無音の宇宙空間に放り出されたような孤独にある息子に立ち上がるきっかけを与えたのは、令子が彼の日常から見出した、ある新たなコミュニケーションの“手段”だった。

勇気をもってひとつひとつ困難を乗り越えていく母と息子の行く手には、希望に満ちた未来が広がっていく……。

今、福島智さんと母・令子さんは、本作のラストの先の“未来”を生きている。
智さんは、2003年に米国タイム誌の「アジアの英雄」に選ばれただけでなく、
視力と聴力を失った盲ろう者として世界で初めて常勤の大学教員となり、
現在、東京大学教授を務めている。
そして母・令子さんが若き日の智さんとの日常の中から考案した、
リアルタイムで言葉を伝える新たなコミュニケーションの手段“指点字”は、
多くの人々に希望を与え続けている。

©THRONE/KARAVAN Pictures

